

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狹江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 26,632人 (平成30年度:30,757人)	②年間延べ利用団体数 857 団体 (平成30年度:930団体)																																
収支実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 収入</td> <td style="text-align: right;">単位:円</td> </tr> <tr> <td> 指定管理料</td> <td style="text-align: right;">30,176,851</td> </tr> <tr> <td> その他収入</td> <td style="text-align: right;">5,272,892</td> </tr> <tr> <td> 補償金</td> <td style="text-align: right;">365,476</td> </tr> <tr> <td> 合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">35,815,219</td> </tr> <tr> <td>2 支出</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 人件費・賃金</td> <td style="text-align: right;">18,923,118</td> </tr> <tr> <td> 光熱水費</td> <td style="text-align: right;">1,585,213</td> </tr> <tr> <td> 委託費</td> <td style="text-align: right;">2,818,586</td> </tr> <tr> <td> 消耗品費</td> <td style="text-align: right;">1,206,519</td> </tr> <tr> <td> 修繕費</td> <td style="text-align: right;">2,045,228</td> </tr> <tr> <td> 報償費</td> <td style="text-align: right;">2,081,737</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td style="text-align: right;">3,524,347</td> </tr> <tr> <td> 本部繰入額</td> <td style="text-align: right;">3,017,685</td> </tr> <tr> <td> 合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">35,202,433</td> </tr> <tr> <td>3 差引</td> <td style="text-align: right;">612,786</td> </tr> </table>		1 収入	単位:円	指定管理料	30,176,851	その他収入	5,272,892	補償金	365,476	合 計	35,815,219	2 支出		人件費・賃金	18,923,118	光熱水費	1,585,213	委託費	2,818,586	消耗品費	1,206,519	修繕費	2,045,228	報償費	2,081,737	その他	3,524,347	本部繰入額	3,017,685	合 計	35,202,433	3 差引	612,786
1 収入	単位:円																																	
指定管理料	30,176,851																																	
その他収入	5,272,892																																	
補償金	365,476																																	
合 計	35,815,219																																	
2 支出																																		
人件費・賃金	18,923,118																																	
光熱水費	1,585,213																																	
委託費	2,818,586																																	
消耗品費	1,206,519																																	
修繕費	2,045,228																																	
報償費	2,081,737																																	
その他	3,524,347																																	
本部繰入額	3,017,685																																	
合 計	35,202,433																																	
3 差引	612,786																																	
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また、事業実施後には反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。																																	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由)	・施設の目的に沿って、概ね計画どおりに野外活動に関する専門性を活かした事業を実施している。 ・近隣の黒川駅前にオープンした「ネスティングパーク」にあるハンバーガーレストラン「ターナーダイナー」と連携し、ダッチオープンワークショップを実施し、今後の連携事業の展開や、新たな施設利用者の開拓に繋がっている。 ・近隣施設においてドラム缶ビザ、つぼやさいもの出張指導を実施し、併せてプログラムの周知も行ったことにより、「黒川のおもちつき」などのその後の施設の行事への参加に繋がっている。 ・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的とした外出自粛などの影響もあり、前指定管理時平均と比べ減少した結果となった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を除いた場合、前指定管理期間とほぼ同水準と考えられる。 【参考】第3期指定管理時(平成26年度～平成30年度)平均延べ利用者数:30,193人			
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
	効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか				
	(評価の理由)	・適正な金銭管理・会計手続について、毎月の収支を本部担当者がチェックするなど、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理している。 ・効率的・効果的な支出について、計画外の支出等が認められるが、経費節減に努めおり、全体としての効率性や効果は認められる。			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
把握したニーズが事業運営へ反映されているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・事業の広報について、ホームページやチラシ、SNSの活用等など多様な媒体での広報活動を行い、新たにSNSのQRコードを掲載するなどアクセシビリティの向上を図った。 利用者への対応について、利用者から要望の多かったウェブ申込を新たに導入し、利用者の利便性を向上を図った。 当該施設は地域と良好な関係を保つよう努めており、利用者からの苦情やトラブルはほとんどないが、苦情があった際は、朝礼や職員会議を通じて情報を共有し、また、職員間で共有するルーティン(メールやライングループなど)を構築し適切に対応している。 学校及び行政機関との連携について、栗木台小学校の里山体験事業で薪作りや薪運び等を行った。木を切り捨てるのではなく、薪に加工し、燃料として使う循環的な行為が地球環境に大切であることを生徒に学習してもらい良い機会となり学校からも評価されている。 利用者ニーズについて、利用申出書提出の際に確認書に沿って説明を行い利用時の不安や疑問を事前に解消するとともに、受付時に必ずアンケートを退所時に提出するようお願いをし、設備の不具合等にも迅速に対応している。 					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、主催事業の運営やプログラムの指導の依頼に応じて柔軟な勤務体制を組んで対応しており、野外活動の自然体験活動指導者資格、認定ブッシュクラフト資格等の有資格者を配置し、職員の専門知識を活かした事業展開を行った。 職員の研修体制について、看板となるプログラムについては、各シーズン前に所長を講師にして、使用方法や安全管理、指導方法の確認を行っている。「森のようちえん」事業については、年度初めや初めて参加するボランティアスタッフ向け「ミニ講座」を実施し、対象となる幼児への理解を深め、また、フィールドの危険個所の共有、安全管理についての意識づけを行った。 個人情報等の取扱いについて、個人情報規程や個人情報ポリシーに従って厳重に管理し、法人に設置する個人情報取扱責任者のもと、個人情報取扱責任者を選任して現地職員への教育・訓練を行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3	
	災害発生時のマニュアル等が整備されているか				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理について、専門の業者による定期的な点検に加え、職員による日常点検を毎日実施している。また、月1回の作業日を設けて時間を要する清掃等も実施している。また、敷地内の森林整備や散策路については、地域のネイチャーボランティアや地域の利用団体の協力により適切に整備・管理している。 利用者の安全確保について、リスクマネージャー(安全管理者)を設置、施設運営のリスク管理を行う担当として、他施設の事故トラブル事例の収集やリスク予測、事故防止対策などの安全管理を推進した。また、新たに宿直業務を始めたため宿直マニュアルを作成したほか、通常時と非常時の対応についての研修を行って職員の共通理解を図った。 防犯対策について、施設内点検作業を始め、立ち入り者への積極的な声掛け、警察署の定期的な巡回訪問を依頼するなど防犯対策に取り組んだ。 災害への対応について、防災訓練を実施したほか、「安全管理・緊急時対応マニュアル」に沿って職員間で読み合わせを行い、安全管理に係る共通認識を確認するなど適切に対応した。 					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

- A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

幼児から成人まで、幅広い年齢層に対応した、多彩な青少年体験事業を実施し、野外活動の普及に努めた。また、「バーベキューインストラクター講習会」や「ブッシュクラフトインストラクター講習会」など、野外活動の指導者養成にも着実に取り組んだ。さらには、「黒川のおもちつき」や「黒川プレーパーク」の開催等を通じて、地域との交流にも積極的に取り組んでいるほか、地域のハンバーガーレストランとの新たな連携の開始するなど新たな事業展開にも積極的である。
 広報の取組としてSNSを活用して新規利用者の獲得に取り組み、また、地域の学校と連携して里山授業・里山プログラム体験を実施するなど、ユニークな取組も行われている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も都市における貴重な自然を多くの市民に知ってもらい、安全管理に十分に配慮しながら身近に野外活動を体験できる環境づくりを進めるとともに、地域との連携を強化し、野外体験活動を通じて青少年の健全な育成が図られるような魅力ある事業を展開してもらいたい。